

# 管渠更生工法技術協会について



鵜飼 一雄

UKAI Kazuo

管渠更生工法技術協会  
代表幹事

## 1. はじめに

東京の神田に我が国の本格的な污水管（約2.5km）が明治17年に敷設されて110年余りが経ち、現在の下水道管渠は平成15年度末で35万9000kmにも達している。そのうち敷設後50年を経過した管渠は政令都市を中心に7000km、40年を経過した管渠は1万4000km、更に20年を経過した管渠は5万kmにも達している。

そのような古い時期に敷設した管渠は経年変化による老朽化に加え、輪荷重の変動、地盤沈下等によるクラックや硫化水素による腐食が発生し、道路陥没や浸入水増加の要因となり定期的な点検・調査と計画的な

改築・修繕が望まれている。

また農業用排水路では受益面積が100haを超える農業用排水路は4万5000kmに達し、中小の農業用排水路を含めると40万kmともいわれている。これらの昭和20～30年代に敷設された管水路も経年変化による老朽化、機能低下が見られる。

このような何らかの処置が必要な管渠を非開削で補修・改築する更生工法は、我が国の下水道では昭和58年に広島県で最初に採用され、以来、海外の技術導入や国内での開発が進み、平成15年度の実績は316kmにも達し、累計でも2190kmを超えるまでになった。（表-1）

表-1 管渠更生工法の施工実績

### 管渠更生工法の実績推移

